

2025（令和7）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492300298	事業の開始年月日	平成29年10月1日
		指定年月日	平成29年10月1日
法人名	湘南乃えん株式会社		
事業所名	西湘グループホームえん		
所在地	(250-0863) 小田原市飯泉1070-1		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員 計 18 名 ユニット数 2 ユニット	
自己評価作成日	令和7年12月26日	評価結果 市町村受理日	令和8年6月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームでの生活だからいろいろなことをあきらめたり、我慢したりではなく、当たり前な生活ができたらいいなと思います。まだまだできていないこともあります。一つ一つ変えていけたらと思います。職員にも伝えています。「ここでの生活も悪くない」と思っただけいたらと思います。ご入居者の関係性も大事にしていきたい。ご入居者同士、ご入居者とご家族、ご入居者と地域、ご入居者と職員との関係性作りに取り組んできました。毎日の生活の中で一瞬でも素敵な時間を職員がどう作れるかを考えて毎日過ごしていきたいと思っています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和8年1月27日	評価機関 評価決定日	令和8年4月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

「小田原」駅東口6番バス乗り場から富士急モビリティのバスに乗り、「飯泉橋」バス停で下車後、徒歩3分の場所に位置しています。近隣には酒匂川が流れ、丹沢山系や富士山を望める自然豊かな環境で運営しています。敷地内には法人が運営するデイサービスと小規模多機能型居宅介護事業所を併設し、広い駐車場を備えています。

＜優れている点＞
一人の生活者として地域社会に関わり続ける暮らしを大切にしています。秋祭りでは事業所前の駐車場を子ども神輿の休憩所として開放し、利用者が子どもたちにお菓子や茶を配るなど地域行事に参画しています。また、1月の「どんど焼き」への参加や、夏祭りには近隣の「飯泉観音」まで出かけて屋台や雰囲気を楽しみながら住民と交流する機会を設けています。さらに、地域活動の一環である「注文をまちがえる料理店」に利用者がスタッフとして働くなど、社会の一員としての役割を継続しています。

＜工夫点＞
自治会が開催する水害や火災に備える避難訓練に参加し、利用者は近隣の中学校まで車両で移動しています。実際の避難場所である教室に入り、車いすでの移動に支障がある段差の解消などについて、事業所から改善を提言しています。こうした実地での確認を重ねることで、災害時の確実な避難体制を整えるとともに、地域住民との顔の見える関係作りにつなげています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	12 ～ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	17 ～ 23
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	西湘グループホームえん
ユニット名	1 階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
		○	2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	常に理念「真の幸福を探究し、みらいの福祉を創造する」を意識し、理念に沿った目標に向かって実践している。	運営法人の理念に加え、①思いや願いを自由に選択でき、生きること②人には、個性があり、その人らしい暮らしが保たれていること③人と人とがふれあうことで人間を意識し、存在していること④柔軟に発想し行動すると併記して掲示、実践しています。理念を具現化する姿勢により、集団生活の中でも職員が個々の願いを尊重する環境を整え、一人ひとりの「その人らしい暮らし」の実現とケアの質の向上を図っています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し、地域の行事に参加している。	秋祭りなどの地域行事には事業所の敷地を開放し、利用者と地域住民との交流を図っています。自治会主催の水害や火災に備えた避難訓練には利用者が多数参加し、実際の避難ルートを確認しています。こうした実地での確認を通じて、車いすでの移動に支障がある段差の解消などの改善を地域に提言しています。訓練や行事への参加を重ねることで、災害時の確実な避難体制を整え、地域社会との顔の見える関係作りにつなげています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の会合や研修に参加している。認知症フォーラムの参加やラン伴の参加注文をまちがえる料理店などに参加している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に一度の運営推進会議にてグループホームでの問題の改善点を会議の議題にあげ、委員の方からアドバイスを頂いている。	併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で開催し、自治会長や民生委員、近隣住民、地域包括支援センター職員が継続して出席しています。会議では自治会が地域の催事情報を共有し、事業所はこれらを地域交流の機会として活用しています。こうした定期的な対話を通じて、地域との相互理解を深め、社会に開かれた透明性の高い事業所運営を実現しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護相談員が訪問入居者様の状況について行政へ報告している。管理者へも報告し質の向上協力関係を築いています。	小田原市グループホーム連絡会に参加し、行政や他事業所との情報共有を図っています。市の介護相談員による定期訪問を受け入れ、相談員が利用者の話を傾聴しつつ生活の様子を観察することで、客観的な視点を日々のケアに反映させています。また、要介護認定の更新や調査への立ち会い、生活保護受給に関する相談など、行政と連携しています。こうした外部機関との接点を保つことで、利用者の権利を守り、安心感のある生活支援につなげています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	拘束虐待防止委員会を毎月開催。玄関の施錠は、日中は開錠。チャイムやブザーも取り外している。ご入居者が外へ出たい時は、好きなように出れるようにしている。委員会や会議で相談、検討をしている。	ナースコールの代わりに、利用者が意思を伝えやすい呼び鈴を活用しています。センサーマットの使用は控え、職員の目による見守りを中心としたケアを実践しています。玄関や各フロアのドアは夜間を除き施錠せず、利用者の行動を制限しない開放的な環境を整えています。身体拘束廃止・適正化委員会の開催や内部研修を通じ、全職員で意識を共有することで、利用者の尊厳を支える自由な生活環境を実現しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	拘束虐待防止委員会を毎月開催。委員会主催の研修も2回/年実施している。また委員会から不適切なケア、虐待の防止については発信している。委員会や会議で相談、検討をしている。	利用者を無視したり「ちょっと待っててください」といった不適切な声がけをしないよう、日々の業務の中で職員同士が意識的に注意し合っています。内部研修では具体例を挙げ、管理者と職員が対話を重ねることで、虐待のない事業所運営を実現しています。こうした職員間の相互チェックとたゆまぬ意識啓発を通じて、利用者の尊厳を重んじ、一人ひとりが心穏やかに過ごす環境を整えています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修会を開いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関する説明は、管理者が窓口になっている。また、入居直後や退居の検討に関するご家族様のご相談について、問い合わせのある度に管理者、現場主任が対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情や意見はしっかり受け止め、よりよい環境、理解に努めている。ご家族からの意見や質問など面会時にお伝えして理解を求めている。「ご家族への手紙」も毎月送付している。	「寿司を食べたい」「外出したい」「家族に会いたい」といった利用者の願いに応えるため、日々の生活の中で支援を実践しています。家族の意見や要望は面会時に聞き取り、ケアプランや事業所運営への反映を図っています。こうした一人ひとりの思いに寄り添う姿勢を大切にすることで、集団生活の中でも個々の願いを尊重する環境を整え、利用者と家族の双方に安心感のある暮らしを実現しています。	利用者と家族の絆を深めるため、食事会などの交流機会を設けるなど、個々の事情に合わせた柔軟な手法で関係を継続させる支援が期待されます。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は、ユニット会議で運営規定についての勉強会に取り組み、職員の意見も聞いている。 また、現場主任からわからない事など随時報告がある。	直接は伝えにくい特定の利用者との関わり方や現場の悩みなど、職員アンケートを通じて管理者が把握できるよう工夫しています。把握した意見は各フロアに1人ずつ配置した主任と共有し、事業所の運営に活かしています。こうした職員の声を大切にする仕組みを構築することで、風通しのよい職場環境を保ち、ケアの質を継続的に向上させています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	0JT評価と個人目標について定期的に面談をし、各自が向上心を持って働けるよう努めている。	服薬や排泄、調理など20項目の業務課題に対し、詳細な質問を設けた「0JT評価シート」を運用しています。職員は3ヶ月ごとに自己の業務を振り返り、その結果を管理者が把握することで、公正な評価や給与体系への反映を図っています。こうした客観的な指標を用いることで、職員の専門性を高め、意欲をもって長く働き続ける環境を支えています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	必修研修以外に年2回以上の研修。グループの選択研修や、小田原グループホーム連絡会の研修等に参加を促している。上長は職員の力量を把握し、希望を確認した上での適材適所な方向性を示すようにしている。	法人が開催する新卒時や3年目、7年目、管理者合同研修等を通じて、職員の技能向上を図っています。1回45分の動画配信による研修を60項目用意し、各自が継続して学ぶ環境を運用しています。こうした体系的な教育制度と動画教材を併用することで、職員一人ひとりの専門性を高め、質の高いケアを安定して提供できる体制につなげています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	小田原グループホーム連絡会の研修の参加や、催し物の参加機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	グループホームの環境を押し付けないようにお気持ちに添って対応している。 関係性を大切に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の希望や意向を十分聞くようにして、いい関係作りに心掛けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前のアセスメントを行い、ご入居者にとって必要なことは何かを判断している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	テーブルの配置換え後から隣席の方を気に掛ける 関係量が増えている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族様参加型バーベキュー開催 共に支える関係性を深めれるように取り組んでいます。			
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みのご友人が途切れる事なく面会に来られています。 次回も来て頂けるような配慮に努めている。	友人が琴の演奏や面会のために来所するなど、入居後も馴染みの関係を継続できるよう支援しています。友人とお菓子を囲んで会話を楽しむ機会や、年4回ほどの自宅への帰宅を継続している事例もあり、個々の生活習慣を尊重しています。こうした外部との交流を大切にすることで、住み慣れた地域や人との絆を保ち、潤いのある暮らしの実現を図っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	生活の中で家事や散歩、レクを通して入居者同士で支え合えるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了した方に関してもそのご家族には、「何かありましたら、ご連絡下さい」とお伝えしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご入居者と同じ目線でどんなことをしたいのか、ご本人聞いたり、ご家族に聞いたり「ご本人のしたいこと」の意向の把握に努めている。	入居時の面談や日々のケア、アセスメントを通じて、利用者一人ひとりの思いや意向を把握しています。集約した情報はカンファレンス等で職員間に共有し、日々の支援に反映させています。また、不安を感じているときこそ気持ちや願いを汲み取るよう配慮し、個々の尊厳を重んじています。こうした丁寧な関わりを重ねることで、本人に寄り添った暮らしを実現しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントシート等を見ながら理解するよう努めている。ご家族と連携をとっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	定期的にアセスメントを取っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月の会議にカンファレンス開催管理者、ケアマネジャー、家族様医療へ報告、相談し最善の支援に取り組んでいる。	介護ソフトを用いた日々の記録やモニタリングに基づき、毎月1回カンファレンスを開催して介護計画を見直しています。作成した計画書は家族へ郵送した上で説明を行い、内容への同意を得る手順を運用しています。こうした定例のアセスメントと家族との対話を重ねることで、本人に最適な支援をチームで追求し、安心感のある暮らしの提供に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	気になる様子について記録へ残している。会議でもモニタリングしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ケアプラン以外の事象に対して極力、柔軟な対応に心掛けているが、サービスの多機能化までは実現していない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源との協働までは実現できていない。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	出来る限り以前からのかかりつけ医に受診できるよう支援している。ご家族の同伴通院やご入居者自身の通院が難しい場合、往診医を紹介している。	入居時に連携医との体制を説明した上で、従来のかかりつけ医の継続を含め、医師の選択は本人や家族の意向を尊重して決定しています。継続を希望する場合は受診時の送迎を家族が担うなど、協力体制のもとで医療環境を整えています。こうした個々の希望に沿った選択肢を確保することで、住み慣れた地域とのつながりを保ち、安心感のある暮らしを守っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護に事前に状態のお知らせをし、特変時にも連絡し指示を貰っている。またご入居者の健康状態について相談するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の都度、管理者が病院関係者(ナース・ソーシャルワーカー)に連絡をとっている。病院訪問時に関係性を築けるようにしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方についてはご家族と方針を共有できているが、地域の関係者と共に支援は出来ていない。	入居時に終末期の方針を説明し、同意を得る手順を運用しています。状況の変化に応じた対話と再同意を重ねることで、本人や家族の意向を常に尊重しています。定例の看取り研修に加え、発生時には改めて研修を実施し、チームでケア方針を再確認しています。職員が利用者の五感を大切にしたケアを実践し、その人らしい生活を支えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	対応に対し定期的な訓練が実施されず、実践力が伴っていない。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災避難訓練を年2回(社内)、水害避難訓練(自治会長と地域の避難場所へ)を年1回、合計3回行っている。また防災担当の委員会を月1回開催している。運営推進会議にて、自治会長より地域情報を入手している。	年2回の全利用者参加による避難訓練に加え、酒匂川沿いの立地を踏まえ、自治体と連携した水害避難訓練を年1回実施しています。訓練では避難時間を計測し、実施後の振り返りを通じて気づきや課題を共有することで、避難手順の確認を行っています。こうした実践的な備えを継続することで、有事の際も迅速に行動できる体制を整え、利用者の安全を確保しています。	非常食の速やかな補充に加え、在庫基準の維持に向けた賞味期限の管理体制を見直すなど、災害時に備えた実効性のある対策が期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	研修を通じ予防、注意喚起をしている。	人格の尊重とプライバシー確保の基本は、言葉がけやケア時の対応にあるとの認識のもと、日常の指導を通じて具体的な実践方法を職員間で共有しています。不適切な対応の芽を見逃さぬよう、管理者が状況を見守った上で個別指導を行い、職員自らが気づきを得るよう導いています。こうした教育を通じ、互いに人間を意識し、存在を認め合う環境を整え、日々の生活を支えています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	お気持ちに共感し 問いかけ対応にて自己決定しやすい働きかけをしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご入居者の中でご本人の言葉にできるご入居者については出来ているが、難しいご入居者はその気持ちに沿って出来るよう努力している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床後の整容を洗面所までご案内している。 その際に身だしなみについて希望を伺っている。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	台所へ入りやすい環境 スタッフが独占しないように努めている。	利用者の要望を献立に反映させ、食材の選定から調理まで全て施設内で行っています。利用者は調理の準備や盛り付け、配膳に携わっており、役割を持つことで生活の質を高めています。季節の行事食も職員と共に企画し、食事の楽しみを共有しています。こうした取り組みを通じ、思いや願いを自由に選択できる環境を整え、その人らしい暮らしを彩っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量や水分量が確保できるよう、状態や力、習慣に応じた支援をしている。 尚、自家調理のために栄養バランスの調整等は素人の枠を超えていない。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	朝食後以外には取り組んでいる。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	チェック表を活用し確認の上必要に応じて声掛け、案内、介助とその方に合わせて支援に努めている。	水分摂取や排泄の記録を基に一人ひとりのパターンを把握し、トイレでの自立支援につなげています。思いに沿った言葉かけや誘導を行うと共に、身体状況に応じた排泄用具を選択し、個々の尊厳を守っています。こうしたデータ活用と配慮を重ねることで、個性に応じた生活リズムを整え、思いや願いを自由に選択できる暮らしを追求しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	飲食物の工夫や運動等、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	事故防止や職員の人数により、全入居者が個々に応じた対応はできていない。	入浴予定に基づきつつも当日の意向を確認し、通常の時間帯以外を希望する場合も、可能な範囲で時間や日程を柔軟に調整しています。浴槽への入浴を基本とし、自力での入浴が困難な利用者には、安全を考慮した二人介助で浴槽に浸かる時間を確保しています。こうした個々の身体状況や希望に合わせた配慮を重ねることで、心身ともにリラックスできる時間を提供しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご本人の様子をくみ取り声掛けしている。 希望に沿って支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	往診時にお薬が追加、変更後の様子を医師に報告している。 毎週訪問に来られる看護師へも相談したりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	全員の方には支援が行き届いていない		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	希望を伺えていない。 家族様にも協力の連絡が出来ていない	徒歩5分ほどの飯泉観音への散歩や、リビングから続く畑での外気浴、日光浴を日常的に行っています。今年のお正月には箱根駅伝の見物に出かけたほか、過去には認知症の人を支援するリレーマラソン「ラン伴」に参加するなど、社会とつながる機会を大切にしています。こうした外出支援を通じ、季節の移ろいを感じながら、地域の中で生活を営む環境を継続しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を持っていたいと希望される方には、家族様と相談している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	気軽に電話が出来る環境には取り組めていない。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	用務員の協力体制にて不快、混乱にはなっていない。	南向きで日当たりの良い共用空間は、整理整頓や清掃を重ね、常に清潔で心地よい環境を保っています。1階の壁面には箱根駅伝の見物風景、2階には書初めを飾るなど、利用者の活動の足跡が日々の暮らしに季節を添えています。こうした設えを通じて、住まいとしての安らぎと、これまでの生活の延長にある温かな雰囲気を持っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	お互い話したいときに話せるような環境、雰囲気作りに努めている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人に配置など伺っている。	居室には十分な収納スペースを備えたクローゼットを完備しています。入居時には使い慣れた家具や愛着のある品の持ち込みを歓迎し、これまでの生活の継続性に配慮しています。家具の配置は利用者の意向を直接確認した上で、安全面と快適さを両立させています。こうした個々の好みを尊重した設えにより、自分らしく安らぐ私的空間の質を高めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	出来る事を尊重し努めている。		

事業所名	西湘グループホームえん
ユニット名	2 階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	常に理念「真の幸福を探求し、みらいの福祉を創造する」を意識し、理念に沿った目標を立ててて実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し、地域の行事に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の会合や研修に参加している。認知症フォーラムの参加やラン伴の参加注文をまちがえる料理店などに参加している。また、地域サロンやインスタグラムで認知度の拡充に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に一度の運営推進会議にてグループホームでの問題の改善点を会議の議題にあげ、委員の方からアドバイスを頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護保険においてわからないことや事業所の問題点について、担当者に管理者が相談に行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	拘束虐待防止委員会を毎月開催。玄関の施錠は、日中は開錠。チャイムやブザーも取り外している。ご入居者が外へ出たい時は、好きなように出れるようにしている。委員会や会議で相談、検討をしている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	拘束虐待防止委員会を毎月開催。委員会主催の研修も2回/年実施している。また委員会から不適切なケア、虐待の防止については発信している。委員会や会議で相談、検討をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修会を開いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関する説明は、管理者が窓口になっている。 また、入居直後や退居の検討に関するご家族様のご相談について、問い合わせのある度に管理者、現場主任が対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情や意見はしっかり受け止め、よりよい環境、理解に努めている。ご家族からの意見や質問など面会時にお伝えして理解を求めている。「ご家族への手紙」も毎月送付している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は、毎月のユニット会議で運営規定についての勉強会に取り組み、職員の意見も聞いている。 また、現場主任から随時報告がある。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	0JT評価と個人目標について定期的に面談をし、各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	必修研修以外に年2回以上の研修。 グループの選択研修や、小田原グループホーム連絡会の研修等に参加を促している。上長は職員の力量を把握し、希望を確認した上での適材適所な方向性を示すようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	小田原グループホーム連絡会の研修の参加や、催し物の参加機会を作っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前アセスメントを行い、ご本人の安心を確保するための関係づくりをしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	管理者頼みの部分もあるが、入居前のヒアリングや入居後の状況を把握し関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前のアセスメントを行い、ご入居者にとって必要なことは何かを判断し対応している。アセスメント後にその方にあった必要なサービスの提案もさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	(思いは)家族のように接し、暮らしを共にしていけるように支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の思いや情報を常に共有し、ご本人やご家族、職員との絆を大切にし、より良い介護をしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今までの生活歴を把握し、出来る限り今までの生活と変わらない生活が送れるよう支援しているものの、現実には家族の協力が必要である。来やすい対応にも気を付けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	生活の中で家事や会話、散歩、レクを通して入居者同士で支え合えるよう支援している。またリビングでの席を検討し代えたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了した方に関してもそのご家族には、「何かありましたら、ご連絡下さい」とお伝えしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	思いや暮らしの希望、意向をご本人とのお話の中で把握に努め、困難な場合は本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントをし情報を把握するように努めている。ご家族と連携を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	見守りやお話、一緒に行動することで現状の把握に努めている。また、ご家族とも話し今の現状で出来る事はないか職員で検討している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人、ご家族、介護職員、計画作成担当者、管理者とカンファレンスを行い作成している。医療(主治医、看護師)の意見も確認しているが、他関係者と会議をすることは少ない。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に記録し情報共有し、随時(会議時)カンファレンスを行い介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ケアプラン以外の事象に対して極力、柔軟な対応に心掛けているが、サービスの多機能化までは実現していない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源との協働までは実現できていない。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	出来る限り以前からのかかりつけ医に受診できるよう支援している。ご家族の同伴通院やご入居者自身の通院が難しい場合、往診医を紹介している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護に事前に状態のお知らせをし、特変時にも連絡し指示を貰っている。またご入居者の健康状態について相談するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の都度、管理者、職員が病院関係者(ナース・ソーシャルワーカー)に連絡をとっている。病院訪問時に関係性を築けるようにしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方についてはご本人、ご家族と話し合いを実施し、方針の共有もできているが、地域の関係者と共に支援は出来ていない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	対応に対し定期的な訓練が実施されず、実践力が伴っていない。わからない時は指示を仰ぐようには徹底している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災避難訓練を年2回(社内)、水害避難訓練(自治会長と地域の避難場所へ)を年1回、合計3回行っている。また防災担当の委員会を月1回開催している。運営推進会議にて、自治会長より地域情報を入手している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格の尊重、プライバシーの確保について実施出来ている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご入居者が自己決定できるよう努力している。好きな飲み物に関して選んでいただいたり、洋服を決めていただいている。言葉で伝えづらいご入居者には動きや表情、行動から読み取り、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご入居者、一人ひとりのペースを大事にし、ある程度の生活時間の流れを踏まえながら希望に沿うように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その日に着る洋服はご本人に選んでいただいている。洗面、整髪、整容をご本人にやっていただいている。化粧をする方は出来るように支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎食ではないが、準備や後片付けに関しては、ご入居者と一緒にできている。一人一人の好きなものも把握し、取り入れるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量や水分量が確保できるよう、状態や力、習慣に応じた支援をしている。 尚、自家調理のために栄養バランスの調整等は素人の枠を超えていない。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	全入居者が毎食後の実施は出来ていない。就寝時、起床時は比較的行えている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	それぞれの方の排泄パターンを考慮し、適宜おトイレにご案内するよう支援している。 また、ご自分で出来る能力を活かすため、過度の介助は避けるようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	飲食物の工夫や運動等、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご入居者の状態を考慮し、ご入居者の希望（一人で入りたい、時間等）で楽しめるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人一人の気持ちや習慣に沿って状況に応じて行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員の間で状況を把握し情報共有している。職員の処方薬知識は不足している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個人の意思を尊重している。生活歴から紐解いたり、力を活かした役割に関しては、検討し行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	全員の希望を叶えることは難しいができるだけ出掛けられるようにしたいものの、実施が難しい現状である。誕生日には希望を叶えることができるよう家族と協力しているが、難しい方が増えてきている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いに関しては、職員が管理している。ご本人が買いたい物に関して、その都度一緒に行って購入して頂きたいところだが、全員はできていない。おまつりで好きなものを購入していただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご入居者の中に手紙を出したいと言われる方がいないこともあり、出来ていないが要望を職員が代筆することが出来るようにはしました。電話は掛けることも受けることもほぼない。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居心地よく過ごせるように室温調整、光、生活音に配慮している。整理整頓を心掛け、掃除をきちんと行っている。また、リビングや居室にはご入居者の写真や作品等を飾っている。生活感や季節感のあるものは少ない。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間では入居者同士が思い思いに過ごせるような居場所になっていますが、独りになれる場の工夫がないです。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた物や好みの物を活かせるようしている。レイアウトも決めていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設の設備（床、廊下、階段、トイレや浴室等）は、安全かつできるだけ自立した生活が送れる様な工夫がなされている。また設備を使用し、自立支援できるように努めている。		

2025年度

事業所名 西湘グループホームえん
作成日： 令和 8年 5月 25日

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	災害時に備えた備蓄食料、必用物品の 補充や確保。管理体制の徹底。	3か月以内に必要数を確保すること	備蓄食料に関しては社内で取り組み中。必 用物品に関しては会社に確認、要請する。 管理体制については社内統一内容を委員会 で管理を徹底する	3ヶ月
2	35	災害対策に関し、事業所内の避難訓練 や地域の避難場所への訓練は定着して きているので、地域内の災害対策にも 取り組んでいきたい。	災害時、自治会内の独居高齢者の避難 場所に事業所を利用してもらう。	・ 会社に確認 ・ 行政に申請 ・ 自治会に相談	12ヶ月
3	64	通いの場やグループホームに馴染みの 人や地域の人々が訪ねて来られること が少ない。	地域サロンを地域の方々に使ってもら う。	・ SNSを活用する ・ 宣伝活動をする(小学校、自治会) ・ 催物を開催する(地域包括)	12ヶ月
4	64	通いの場やグループホームに馴染みの 人や地域の人々が訪ねて来られること が少ない。	事業所に馴染みの方やボランティアさ んの来訪が増える。	・ 事業所の雰囲気を見直す ・ インフォーマルの情報収集をする ・ 繰り返し来ていただける関係性を 構築する	12ヶ月